

# 来週の「売り物記事」はこれ



2017年4月21日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 世界に挑む車いすスキーヤー・村岡桃佳選手

23日(日)



2014年ソチ冬季パラリンピック・アルペンスキー日本代表の村岡桃佳選手(20)＝写真＝は、五輪メダリストらを輩出してきた早稲田大学スキー部の一員として練習に励んでいます。創部100年近い伝統を誇る早大スキー部は原則として全寮制で、車いすの村岡選手を受け入れるために寮を改修する



などしてバリアフリー化を図りました。改修された寮に入った村岡選手は周囲から支えられるだけでなく、けがに苦しむ健常者の選手を逆に支えてもいる存在に成長しています。障害者のトップアスリートを受け入れた名門運動部と、2018年の韓国・平昌冬季パラリンピックを目指す村岡選手の姿に迫ります。筆者は、過去にパラリンピックを計3大会取材している東京運動部の飯山太郎記者です。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## 原発事故から6年 福島…それぞれの「桜」

夕刊特集ワイド 24日(月)



桜前線が北上しています。咲き乱れる景色には心が躍りますが、東京電力福島第1原発事故の影響が続く被災地では、人々はどんな思いを抱いて桜を見つめているのでしょうか。記者が向かったのは、有名な「三春滝桜」をはじめ桜の名所として知られる福島県三春町。町内にある寺の住職で芥川賞作家の玄侑宗久さんや、原発事故から避難して今も仮設住宅で暮らす人々を訪ねました。語られた言葉から浮かび上がるものとは——。

## 消えない傷

くらしナビA面 26日(水)

DV(配偶者間暴力)の相談件数が増えています。親の暴力を目撃したり、自分が殴られたりした子どもたちも虐待の被害者です。しかし、安全なシェルターに避難しても心に傷を負って苦しんだまま。支援の手も届きにくいのが現状です。実際に避難した母子ら当事者や専門家取材して、子どもたちにどのような影響が出ているのか、4回にわたって報告します。



## 増える衣類ケア家電

くらしナビA面 25日(火)



衣類のしわやにおい取りなどに使う衣類ケア専有家電が増えてきました。アイロン代わりに使える「衣類スチーマー」、ロッカーの中で噴射する蒸気を活用する「衣類リフレッシュ機」、はては全自動衣類折り畳み機に至るまで、次々と商品が登場しています。専門家は「消費者は単機能、コンパクトで高性能なものに注目するようになった」と分析しています。

衣類、手紙から配偶者まで。「捨てられないモノ」というテーマで、過去最多に近い数の投稿が寄せられました。断捨離できないことを誇りに思っている意見が印象的です。亡き父の工作を残しておいたら、思いもよらない効果があったり、夫との恋人時代の思い出の品を秘密の宝箱に入れておき、夫婦げんかを乗り越えてきたり。一体どんな声が届いたのでしょうか。



## 新コーナー「読み解きワード」

医療・福祉面 26日(水)



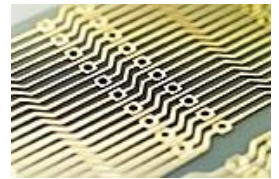
医療や社会保障のニュースでよく見る旬のキーワードを、大型の図版とともに分かりやすく説明するコーナー「読み解きワード」が今月から始まります。初回に取り上げるのは「受動喫煙」。他人のたばこの煙を吸うことによる健康への影響はどこまで解明されているのか、受動喫煙で年間1万5000人が命を落としているとされる推計の根拠、国が対策を急ぐ理由などを、丁寧に読み解きます。テーマを変えながら、原則毎月掲載していきます。

## 経営危機の東芝

### 再建目指すも、技術流出に懸念の声

オピニオン面 [論点] 26日(水)

日本を代表する大企業の一つである東芝が経営危機にあえいでいます。米国での原発事業で巨額の損失を計上し、上場廃止の瀬戸際に立たされています。再建に向け、海外の原発事業の撤退を決めました。稼ぎ頭である半導体メモリー事業の売却も急いでいます。しかし、技術の海外への流出を懸念する声もあります。東芝は再建への道を見いだすことができるのでしょうか。



## 環境問題へのかかわり

### 原発廃止を訴え、朗読劇で全国を回る中村敦夫さん

オピニオン面 [インタビュー] 29日(土)



テレビ時代劇「木枯らし紋次郎」で「あっしには、かかわりのねえこって」が決めゼリふだった俳優の中村敦夫さん=写真。この十数年、環境問題に深くかかわっています。中でも、2011年3月の東京電力福島第1原発事故以降、さまざまな形で原発廃止を訴えています。5月からは朗読劇「線量計が鳴る」で全国を回ります。まるで修行僧のような、命がけの訴えです。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。